

2009年の大雨

7, 8月に西日本などで集中豪雨による災害が発生

1. 概要

梅雨入りは、沖縄地方から九州南部にかけては遅く、九州北部地方から東北地方にかけては早かった。梅雨明けは、太平洋高気圧の日本列島付近への張り出しが弱く、このため、多くの地方で梅雨明けが遅くなったほか、梅雨明けが特定できなかった地方もあった。

7月から8月前半にかけて、北日本では低気圧が発達しながら頻繁に通過し大雨となった。7月後半には梅雨前線の活動が活発となり、西日本を中心に各地で大雨となった。特に、7月19日から26日にかけては、中国地方から九州北部地方にかけ記録的な大雨となり、浸水害や土砂災害に見舞われ、「平成21年7月中国・九州北部豪雨」と命名した。また、8月8日から11日にかけて、台風第9号が日本の南海上を通過した際、日本列島に非常に湿った空気が流入し、東日本から西日本にかけ記録的な大雨となった。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。降水量を記載する際の観測地点名は、都道府県名、市町村名及び地点名とした。被害状況については、主に気象庁が取りまとめた資料によるが、一部、総務省消防庁等発表の資料も使用した。また、負傷者等の数には風等を原因とするものも含まれる。

(1) 1月30日～2月1日：西日本から北日本<低気圧>

低気圧が九州の南海上から関東の東海上を通過して、千島近海へと進んだ。九州南部、近畿地方、東海地方、北陸地方、関東甲信地方では大雨となったところがあった。低気圧通過後、冬型の気圧配置となり、東日本や北日本の一部で暴風となったほか、沿岸では大しけとなったところもあった。

高波などにより、岩手県、三重県、鹿児島県で死者・行方不明者4名となったほか、三重県を中心に大雨による住家浸水があった。また、暴風・強風により、茨城県でパイプハウスの倒壊などの農業被害が発生した

ほか、岩手県、宮城県、茨城県で停電が発生した。さらに、東北地方、関東甲信地方、北陸地方、近畿地方で、遅延や運休などの交通障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

(2) 2月20日～21日：西日本から北日本<低気圧>

低気圧が発達しながら四国から本州南岸、釧路沖を通過して千島の東海上へ進んだ。近畿南部の一部で大雨となったほか、北日本から東日本の一部で暴風となり、東日本から北日本の沿岸の一部で大しけとなった。

暴風により、青森県を中心に住家損壊や、農業および水産業被害、および停電が発生した。また、北海道を中心に鉄道や航空機の運休や遅延などの交通障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

(3) 3月13日～14日：西日本から北日本<低気圧>

低気圧が発達しながら対馬海峡から日本海中部を通過してサハリンの東海上へ進み、この低気圧からのびる前線が西日本から北日本を通過した。このため、九州地方、四国地方、東海地方、北海道では大雨となったところがあり、北日本の一部で最大風速が20m/sを超える暴風となった。また、北日本の日本海沿岸の一部で大しけとなった。

暴風により、島根県、鳥取県、新潟県を中心に住家損壊や農業および水産業被害、停電が発生した。また、北日本から西日本の広い範囲で、列車や航空機の運休・遅延などの交通障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

(4) 4月25日～26日：西日本から北日本<低気圧>

九州の西海上の前線を伴った低気圧が発達しながら、関東の東海上、三陸沖を通過して北海道の東海上へと進んだ。このため、西日本、東日本、北日本の一部で大雨となり、西日本の一部では暴風となった。

この期間に、後立山連峰・鳴沢岳(標高2,641m)方面で、京都府立大学山岳部3名が遭難し、全員の死

亡が確認された。暴風により、北海道、岩手県、福島県を中心に、住家損壊、住家損壊や農業および水産業被害、停電が発生した。また、新潟県や千葉県を中心に、鉄道や航空機の運休・遅延など、交通障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(5) 6月22日～23日：西日本、北陸地方、北海道<梅雨前線>

6月22日から23日にかけて、梅雨前線の活動が活発となり、西日本から北日本の広い範囲で大雨となった。

この大雨により、愛知県で住家浸水が発生したほか、岐阜県、島根県、鳥取県で土砂災害が発生した。さらに、北海道では道路損壊が発生したほか、鳥取県では、農業被害も発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(6) 6月28日～7月2日：九州北部、近畿南部、北陸地方<梅雨前線>

6月28日から7月2日にかけて梅雨前線の活動が活発となり、西日本と北陸の一部で大雨となった。

この大雨により、熊本県や鹿児島県などで住家浸水が発生したほか、九州北部を中心に、道路損壊、土砂災害が発生した。また、広島県では、畑の崩落による農業被害が発生したほか、九州地方、中国地方で、鉄道や航空機の運休・遅延等の交通障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(7) 7月5日～7日：和歌山県<梅雨前線>

7月5日から7日にかけて、梅雨前線が日本付近に停滞し、湿った空気が流れ込んで、前線の活動が活発となった。

この大雨により、和歌山県で死者1名、負傷者6名が発生した。また、和歌山県田辺市を中心に、住家浸水180棟となったほか、土砂災害が発生した。また、落雷により、京都府や奈良県で停電が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

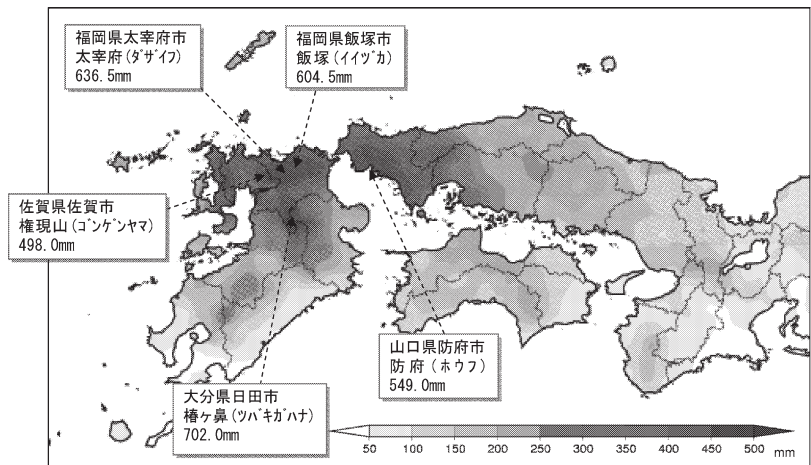
る）

(8) 7月19日～26日：平成21年7月中国・九州北部豪雨<梅雨前線>

7月19日から26日にかけて、西日本で梅雨前線の活動が活発になった。

21日は山口県を中心に大雨となり、山口県防府市防府では22日04時50分までの24時間雨量が275.0mmに達した。その後、24日から26日にかけて、広島県、福岡県、佐賀県、長崎県を中心に大雨となった。福岡県福岡市博多で24日19時25分までの1時間に116.0mmを観測するなど、局地的に1時間に100mmを超える猛烈な雨が降ったほか、24日00時から26日24時までの3日間の雨量は、福岡県太宰府市太宰府で618.0mm、福岡県飯塚市飯塚で568.0mm、佐賀県佐賀市権現山で458.5mmとなった。19日から26日までの総雨量は、大分県日田市椿ヶ鼻で702.0mm、福岡県太宰府市太宰府で636.5mmなどとなり、ところによっては、この期間の雨量が7月の月間降水量平年値の2倍近くとなった。第1図に総雨量分布図を示す。

この大雨により、広島県、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県において死者が34名となり、特に、山口県防府市では土石流や山崩れにより死者が17名にのぼった。また、山口県、福岡県を中心に住家の浸水が約12,000棟となるなど各地で浸水害や土砂災害が発生した。その他、停電、断水が発生し、交通障害が発生した。（被害の状況は総務省消防庁などによる（2010年2月8日16時現在））



第1図 総雨量分布図（期間：7月19日～7月26日）。

この7月19日から26日にかけて災害をもたらした大雨について、気象庁は「平成21年7月中国・九州北部豪雨」と命名した。

(9) 8月6日～7日：九州南部，四国地方，関東甲信地方<大気不安定>

湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、西日本から東日本にかけて大雨となったところがあった。

この大雨により、長野県、新潟県などで住家浸水が発生したほか、土砂災害が発生した。また、群馬県では林業被害が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

(10) 8月9日～11日：西日本から東日本<台風第9号>

8月8日09時に硫黄島の南西海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、9日15時に日本の南海上で台風第9号となった。台風は、次第に向きを北東へ変え、10日09時に勢力が最大となった。台風は、勢力を弱めながら本州南岸を東へ進み、進路を北に変えた直後の13日09時に日本の東海上で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は、北東へ進路を変え、14日21時に日本のはるか東海上で温帯低気圧に変わり、さらに東北東に向きを変え、16日09時前にアリューシャンの南海上で経度

180度線を超えた。

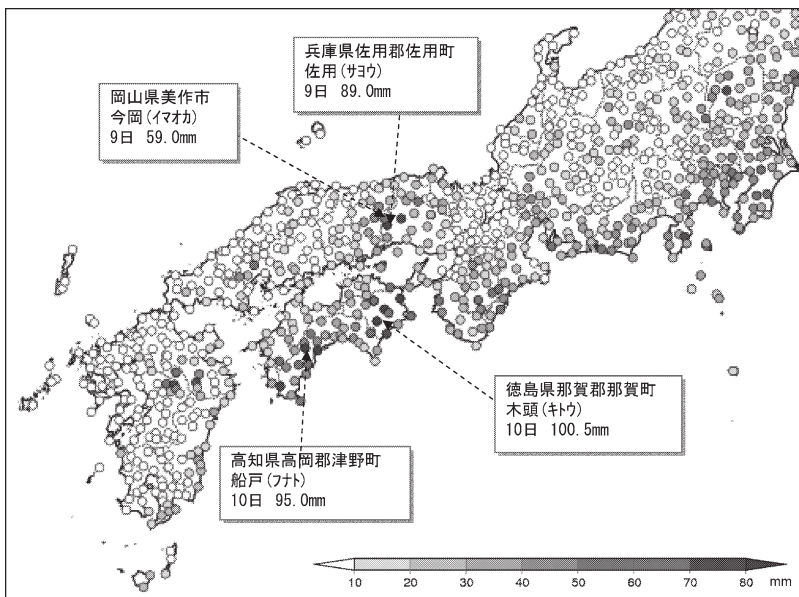
熱帯低気圧およびそれから変わった台風周辺の湿った空気の影響により、8日から11日にかけて、総雨量が四国地方の多いところで700mmを超えたほか、徳島県、香川県、兵庫県、岡山県の一部では、8月の月間降水量平年値の2倍を超える記録的な大雨となった。また、西日本から東日本の太平洋側および東北地方の一部で、日雨量が100mmを超える大雨となった。第2図に期間最大1時間降水量分布図を示す。

この台風により、徳島県、岡山県、兵庫県、長野県で死者25名、行方不明者2名となり、特に、兵庫県佐用郡佐用町では死者18名、行方不明者（状況不明も含む）2名となった。また、岡山県、兵庫県、埼玉県など西日本から東日本の広い範囲で住家の浸水が約5,500棟となるなど各地で浸水害や土砂災害が発生した。さらに、農業・林業・水産業被害や鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等による交通障害が発生した。（被害の状況は総務省消防庁などによる（2009年11月20日15時現在））

(11) 8月19日：沖縄県那覇市<大気不安定>

沖縄本島地方は上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、19日午後は、沖縄本島内の所々で局地的に激しい雨となった。19日14時ごろ、那覇市樋川のガープ川で橋の耐震調査工事をしていた男性作業員5名が河川の急激な増水のため流され、4名が亡くなった。14時ごろ、事故現場付近に気象レーダーで観測された強い降雨域があり、また、解析雨量は、事故現場付近の河川上流部では同時刻の1時間に20～30mmとなった。

なお、事故現場から500m程度離れた沖縄気象台で観測された13時から14時までの1時間降水量は3.5mmであり、強い雨が狭い範囲に降る局地的大雨であった。



第2図 期間最大1時間雨量図（期間：8月8日～8月11日）。

(12) 10月6日～8日：全国＜台風第18号＞

9月29日15時にマーシャル諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は、西北西に進み、30日09時にポンペイ島の北海上で台風第18号となった。台風は、西北西の向きを維持しながら急速に発達し、10月4日15時にマリアナ諸島の西海上で勢力が最大となった。台風は、6日に南大東島の西海上で向きを北に変え、日本の南海上を北東に進んだ。台風は、北東の向きを維持しながら、8日05時過ぎに知多半島付近に上陸し、東海地方、関東甲信、東北地方を縦断して、8日21時に三陸沖で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は東に向きを変え、11日15時にアリューシャンの南海上で消滅した。

この台風により、愛知県東海市東海で8日05時48分までの1時間に83.5mmの猛烈な雨が降ったほか、近畿地方の一部で6日から8日までの総雨量が300mmを超えるなど、沖縄地方から東北地方の広い範囲で大雨となった。

また、この台風は、非常に強い勢力を保ったまま南西諸島から西日本に接近し、強い勢力で東海地方に上陸したため、沖縄地方から北海道地方にかけての広い範囲で最大風速20m/sを超える暴風となった。

7日から8日には沖縄・奄美から北日本の沿岸でしけとなり、近畿や東海の太平洋側と伊豆諸島では、高さ9mを超える猛烈なしけとなったところもあった。

南西諸島では7日未明から、九州南部、四国地方の太平洋側沿岸では7日昼過ぎから夜遅くにかけて、近

畿南部、東海、関東南部、東北南部の太平洋側では8日未明から昼前にかけて、東北北部と北海道の太平洋側では8日昼過ぎから9日明け方にかけて、最大潮位偏差が50cm以上となった。愛知県赤羽根では8日明け方に最大潮位偏差が183cm、最高潮位TP*上190cm、静岡県石廊崎では8日朝に最大潮位偏差が135cm、最高潮位TP*上187cmなどとなった。（※TP：東京湾平均海面（標高・海拔の基準））。

この台風により、和歌山県、埼玉県および宮城県で死者5名となり、沖縄地方から北海道地方の広い範囲で住家の浸水が約3,400棟、住家の損壊が約3,400棟となるなど各地で浸水害、土砂災害等が発生した。農業・林業・水産業被害や鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等による交通障害が発生した。さらに、茨城県土浦市と龍ヶ崎市、千葉県九十九里町等では、竜巻により負傷者や住家損壊が発生した。（被害の状況は総務省消防庁などによる（2009年11月18日10時現在））

(13) 11月10日～11日：西日本～東日本＜低気圧＞

前線を伴う低気圧が相次いで日本を通り、西日本から東日本の広い範囲で大雨となった。

この大雨により、和歌山県で死者1名、住家の浸水が約900棟となったほか、兵庫県、和歌山県などで土砂災害が発生した。また、和歌山県、島根県で停電が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

（気象庁予報部予報課）

 気候情報

2009年の台風

2年ぶりに台風が日本に上陸

1. 概要

2009年（平成21年）に発生した台風は22個（平年値26.7個）と平年値を下回った。5～10月の発生数は21個（平年値21.3個）と平年並みだったが、11月以降の発生数が1個（平年値3.7個）と比較的少なかった。

日本への接近数は8個（平年値10.8個）だった。地域別では北日本と東日本で平年値を上回るか同程度で

ある一方、西日本と沖縄・奄美で平年値を下回っており、特に沖縄・奄美では接近数が3個（平年値7.2個）と少なくなった。また、上陸数は台風第18号の1個（平年値2.6個）で、2007年台風第9号の上陸以来2年ぶりとなった。

第1表に台風の発生数、上陸数、接近数を、第2表に発生した台風の一覧を示す。

第1表 2009年の台風発生数、日本への上陸数*1、日本への接近数*2と平年値及び2008年との比較.

項目	月	月												年間
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
平年値	発生数	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7
	上陸数						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6
	接近数				0.1	0.5	0.7	2.1	3.4	2.6	1.3	0.7	0.1	10.8
平成20年 (2008年)	発生数				1	4	1	2	4	4	2	3	1	22
	上陸数													0
	接近数					3	1	2	1	2	1			9
平成21年 (2009年)	発生数					2	2	2	5	7	3	1		22
	上陸数										1			1
	接近数					1			3	3	2			8

(注) ・平年値は、昭和46年(1971年)～平成12年(2000年)の30年平均。

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸*1 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近*2 台風の中心が、日本から概ね300km以内に入った場合を「接近」という。

2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風(本稿では台風の中心が日本から概ね500kmに入った場合とする)のうち、主な台風について以下に概要を示す。また、時刻については、全て日本時で表記した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。

(1) 台風第1号(0901 KIJIRA)

5月1日21時にルソン島の南東沿岸付近で発生した熱帯低気圧は、ゆっくりと北東へ進み、3日03時に同海域で台風第1号となった。台風は勢力を強めながら進み、5日03時にフィリピンの東海上で勢力が最大となった。台風は、勢力を弱めながら北東へ進み、7日に小笠原諸島付近を通過して8日03時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は、さらに北東へ進み、13日21時にカムチャツカ半島の東海上で消滅した。

(2) 台風第3号(0903 LINFA)

6月17日15時に南シナ海で発生した熱帯低気圧は、ほとんど停滞し、18日09時に同海域で台風第3号となった。台風は勢力を強めながら北へ進み、20日15時に同海域で勢力が最大となった。台風は、その後勢力を弱めながら中国大陸の南岸に沿って北東へ進み、22日15時に熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は、東シナ海を東北東に進み、23日15時に温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は本州南岸を通過して、7月1日03時に

カムチャツカ半島の東海上で消滅した。

(3) 台風第6号(0906 MOLAVE)

7月15日09時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は、北西に進み、16日15時にルソン島の東海上で台風第6号となった。台風は、ルソン島の北で西北西に向きを変えた後、18日03時に勢力が最大となった。台風は、勢力を維持したまま南シナ海をさらに西北西に進み、19日03時に香港の北に達した。台風は、その後急速に勢力を弱め、19日15時に熱帯低気圧に変わり、19日21時に中国大陸南部で消滅した。

(4) 台風第8号(0908 MORAKOT)

8月3日03時に南大東島の南東海上で発生した熱帯低気圧は、3日09時に同海域で台風第8号となった。4日、台風は東から西に進路を変えて沖縄の南東海上を進み、7日00時に石垣島の南海上で勢力が最大となった。台風は、さらに西に進み、7日夜に台湾に上陸した。台風は、勢力を弱めながら進路を北に変え、9日夜に福建省に達し、11日03時に上海の南西で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は、進路を北東に変えて黄海を進み、12日03時に黄海で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は、その後も北東へ進み、12日15時に朝鮮半島付近で消滅した。

(5) 台風第9号(0909 ETAU)

8月8日09時に硫黄島の南西海上で発生した熱帯低

第2表 2009年に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生		台風の発生		台風期間中の最低(大)値			熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置		消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外で最初に確認された日時						
		月日時	北緯 東経	月日時	北緯 東経	海面気圧 hPa	風速 m/s	月日時	強風域半径 km	月日時	北緯 東経	種類	月日時	北緯 東経			
1	KUJIRA	5 1 21	12.8 124.1	5 3 03	13.4 124.6	5 5 15	940	5 5 15	45	5 6 15	240	5 8 03	32.3 149.3	L	5 13 15	55.0	164.3
2	CHAN-HOM	5 3 03	9.7 111.1	5 3 21	9.9 111.6	5 7 15	975	5 7 15	35	5 7 15	SE: 230 NW: 190	5 9 09	17.2 127.5	TD	5 13 09	25.7	128.8
3	LINFA	6 17 15	17.4 116.7	6 18 09	17.6 116.1	6 21 09	975	6 21 09	30	6 21 15	S: 300 N: 190	5 22 15	27.4 120.7	TD	6 30 21	57.8	171.9
4	NANGKA	6 22 21	10.8 129.0	6 23 15	11.8 125.3	6 24 21	994	6 25 15	20	6 24 15	300	6 27 03	23.0 114.2	TD	6 27 03	23.0	114.2
5	SOUDELOR	7 20 03	18.7 121.7	7 11 09	19.8 115.4	7 11 21	992	7 12 03	18	7 12 03	190	7 12 09	20.5 110.4	TD	7 13 03	20.8	105.0
6	MOLAVE	7 15 09	14.1 128.6	7 16 15	16.6 125.1	7 18 21	975	7 18 21	35	7 18 15	SE: 440 NW: 240	7 19 15	23.3 111.1	TD	7 19 15	23.3	111.1
7	GONI	8 1 15	16.6 123.2	8 3 21	19.7 115.3	8 8 09	990	8 5 21	20	8 5 03	S: 330 N: 150	8 8 15	18.4 108.2	TD	8 10 09	20.4	114.3
8	MORAKOT	8 3 03	20.1 133.4	8 3 09	20.3 133.8	8 7 09	945	8 7 09	40	8 7 03	650	8 11 03	31.0 120.5	TD	8 12 09	36.7	126.1
9	ETAU	8 8 09	22.7 139.7	8 9 15	27.0 135.2	8 13 03	992	8 12 15	20	8 13 03	SE: 370 NW: 150	8 13 09	33.8 151.7	TD	8 16 09		域外
10	VAMCO	8 16 21	11.6 160.7	8 18 03	14.5 158.3	8 22 03	945	8 22 03	45	8 26 03	SE: 370 NW: 220	8 26 09	51.4 169.3	L	8 27 03		域外
11	KROVANH	8 28 09	21.4 149.1	8 28 21	23.8 149.0	8 31 09	975	8 31 09	30	9 1 15	NE: 370 SW: 220	9 1 21	42.9 148.2	L	9 2 15	43.4	155.6
12	DUJUAN	9 3 03	17.5 130.1	9 4 03	17.1 128.2	9 10 09	980	9 10 09	25	9 6 03	SE: 600 NW: 480	9 10 15	45.5 167.4	L	9 11 21		域外
13	MUJIGAE	9 9 09	16.9 119.1	9 10 09	19.0 114.9	9 11 15	994	9 11 15	20	9 10 15	N: 240 S: 90	9 12 09	20.0 106.0	TD	9 12 21	20.6	102.8
14	CHOI-WAN	9 12 09	14.3 153.5	9 13 03	15.4 150.9	9 17 03	915	9 17 03	55	9 20 09	SE: 560 NW: 390	9 20 21	36.8 152.3	L	9 21 03	38.8	156.1
15	KOPPU	9 13 09	19.5 120.3	9 14 03	19.7 116.6	9 15 03	975	9 15 03	35	9 14 15	300	9 15 21	23.3 109.5	TD	9 16 03	23.2	108.5
16	KETSANA	9 25 09	14.2 127.9	9 26 09	15.1 122.4	9 29 09	960	9 29 15	35	9 28 21	E: 440 W: 410	9 30 15	15.3 107.1	TD	10 1 03	15.1	105.0
17	PARMA	9 28 03	9.4 145.5	9 29 15	7.8 138.9	10 1 21	930	10 1 21	50	10 5 09	330	10 14 09	20.3 107.1	TD	10 14 09	20.3	107.1
18	MELOR	9 29 15	9.6 160.4	9 30 09	11.5 156.2	10 5 03	910	10 5 03	55	10 8 18	SE: 650 NW: 560	10 8 21	40.0 143.6	L	10 11 09	47.2	177.1
19	NEPARTAK	10 8 09	15.2 143.8	10 9 15	19.4 142.7	10 13 15	992	10 13 21	23	10 14 03	E: 280 W: 220	10 14 09	34.0 160.0	L	10 16 03		域外
20	LUPIT	10 14 21	10.9 148.8	10 15 21	12.1 140.2	10 19 15	930	10 19 15	50	10 19 15	440	10 27 09	38.3 146.1	L	10 31 03	56.9	173.6
21	MIRINAE	10 26 03	11.8 152.5	10 27 15	14.9 143.7	10 29 09	955	10 29 09	40	10 30 09	N: 370 S: 220	11 3 03	13.0 106.7	TD	11 3 03	13.0	106.7
22	NIDA	11 22 03	6.7 148.3	11 23 21	8.5 147.1	11 26 15	905	11 26 09	60	11 30 03	NW: 480 SE: 300	12 3 09	21.7 134.2	TD	12 3 21	22.6	135.6

表中の日はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

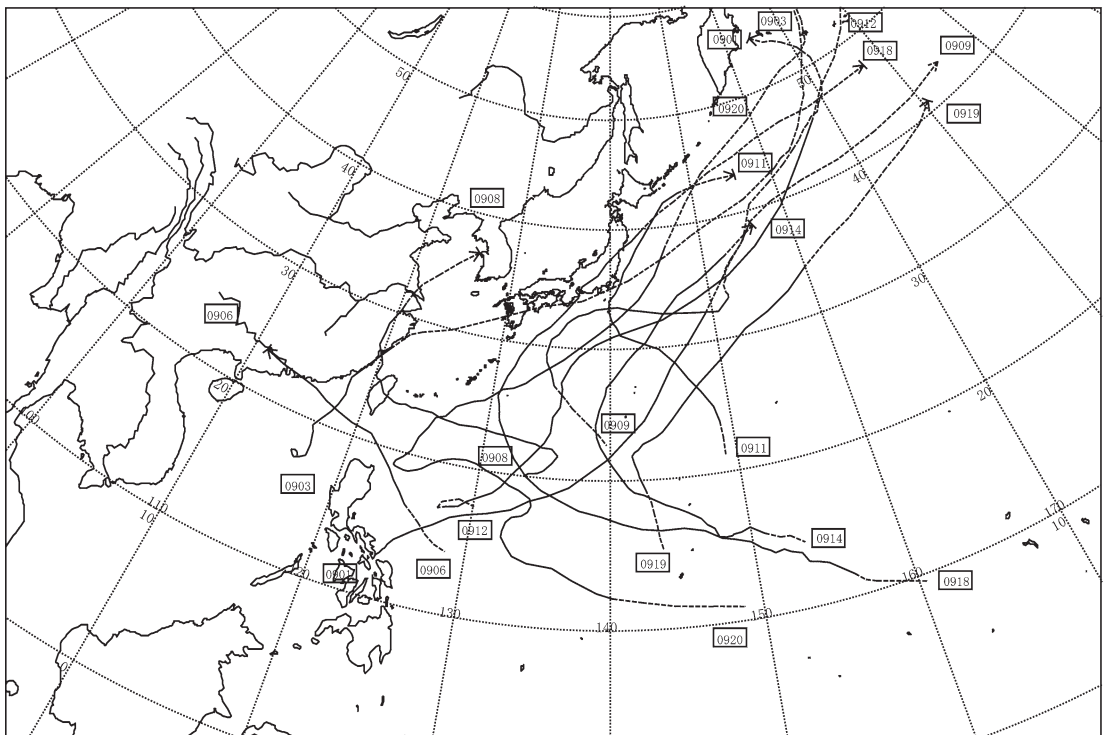
域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、又は東経100°より西側の領域。

第3表 2009年に日本に影響した台風の概要表（熱帯低気圧，温帯低気圧の期間は除く）。

台風 番号	日本への影響			日本への接近			上陸，通過
	月日		地 域	月日		地 域	
	始	終		始	終		
1	5/6	5/7	小笠原諸島	5/7	5/7	小笠原諸島	
3	6/21	6/22	沖縄地方				
6	7/17	7/18	沖縄地方				上陸または通過せず
8	8/5	8/10	沖縄・奄美	8/6	8/9	沖縄地方	上陸または通過せず
9	8/9	8/12	沖縄・奄美，西日本，東日本，伊豆諸島，東北地方	8/10	8/11	四国地方，近畿地方，東海地方，関東甲信地方，伊豆諸島	上陸または通過せず
11	8/29	9/1	四国地方，近畿地方，東日本，伊豆諸島，小笠原諸島，北日本	8/30	9/1	東日本，北日本，伊豆諸島	上陸または通過せず
12	9/5	9/9	沖縄地方，近畿地方，東海地方，関東甲信地方，伊豆諸島，小笠原諸島	9/8	9/8	伊豆諸島	上陸または通過せず
14	9/18	9/20	伊豆諸島，小笠原諸島	9/19	9/19	小笠原諸島	上陸または通過せず
18	10/6	10/8	沖縄・奄美，西日本，東日本，北日本	10/6	10/8	沖縄・奄美，西日本，東日本，伊豆諸島，北日本	8日午前5時過ぎ愛知県知多半島付近に上陸
19	10/11	10/13	小笠原諸島				
20	10/23	10/27	沖縄地方，九州南部・奄美地方，四国地方，近畿地方，東海地方，関東甲信地方，伊豆諸島，東北地方	10/24	10/27	沖縄・奄美，東海地方，関東地方，伊豆諸島	上陸または通過せず

* 台風が中心が日本から概ね300kmに入った場合を「日本に接近した台風」とした。

* 台風が中心が日本から概ね500kmに入った場合を「日本に影響した台風」とした。



第1図 2009年に日本に影響を及ぼした台風の経路図。

気圧は北西へ進み、9日15時に日本の南海上で台風第9号となった。台風は、次第に向きを北東へ変え、10日09時に勢力が最大となった。台風は、勢力を弱めながら本州南岸を東へ進み、進路を北に変えた直後の13日09時に日本の東海上で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は、北東へ進路を変え、14日21時に日本のはるか東海上で温帯低気圧に変わり、さらに東北東に向きを変え、16日09時前にアリューシャンの南海上で経度180度線を超えた。

(6) 台風第11号 (0911 KROVANH)

8月28日09時に北マリアナ諸島の東で発生した熱帯低気圧は北へ進み、28日21時に小笠原諸島の南東海上で台風第11号となった。台風は、向きを北西へ変え、31日03時に勢力が最大となった。台風は、再び北に向きを変え、31日に八丈島の東を通過した。台風は、加速しながら北東へ向きを変え、本州の東海岸に沿って進み、9月1日21時に北海道の東海上で温帯低気圧となった。温帯低気圧は東へ進み、2日21時に千島の南海上で消滅した。

(7) 台風第12号 (0912 DUJUAN)

9月3日03時にルソン島の東海上で発生した熱帯低気圧は、ゆっくりと西に進み、東に向きを変えた後の4日03時に台風第12号となった。台風は、同海域で北東に向きを変え、5日09時に勢力が最大となった。台風は、勢力を維持したまま次第に北に向きを変えて進み、日本の南海上で加速しながら東北東に向きを変え、日本の東海上で北東に向きを変えて進んだ。台風は、10日15時にアリューシャンの南海上で温帯低気圧に変わり、11日21時前に経度180度線を越えた。

(8) 台風第14号 (0914 CHOI-WAN)

9月12日09時にサイパン島の東海上で発生した熱帯低気圧は、西北西に進み、13日03時に同海域で台風第14号となった。台風は、西に向きを変えて急速に発達し、再び西北西に向きを変え、15日21時にサイパン島の北海上で勢力が最大となった。台風は、向きを北東に変え、加速しながら小笠原諸島の北海上を通過し、20日21時に日本の東海上で温帯低気圧となり、21日09

時に消滅した。

(9) 台風第18号 (0918 MELOR)

9月29日15時にマーシャル諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は、西北西に進み、30日09時にポンペイ島の北海上で台風第18号となった。台風は、西北西の向きを維持しながら急速に発達し、10月4日15時にマリアナ諸島の西海上で勢力が最大となった。台風は、6日に南大東島の西海上で向きを北に変え、日本の南海上を北東に進んだ。台風は、北東の向きを維持しながら、8日05時過ぎに知多半島付近に上陸し、東海地方、関東甲信、東北地方を縦断して、8日21時に三陸沖で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は東に向きを変え、11日15時にアリューシャンの南海上で消滅した。

(10) 台風第19号 (0919 NEPARTAK)

10月8日09時にサイパン島の西海上で発生した熱帯低気圧は、北北西へ進み、9日15時に北マリアナ諸島の西海上で台風第19号となった。台風は、北東へ向きを変え、12日09時に小笠原諸島の東海上で勢力が最大となった。台風は、加速しながら東北東へ向きを変え、14日09時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は、16日03時前にアリューシャンの南海上で経度180度線を越えた。

(11) 台風第20号 (0920 LUPIT)

10月14日21時にグアム島の南東海上で発生した熱帯低気圧は、西から西北西へ向きを変えて進み、15日21時にヤップ島の北東海上で台風第20号となった。台風は、フィリピンの東海上に達した後時計回りにゆっくりと北へ向きを変え、19日03時に勢力が最大となった。台風は、徐々に勢力を弱めながら西北西へ向きを変えた後、西南西へ向きを変えた。台風は、ゆっくりと進みながらルソン島の北東沿岸付近で北東へ急に向きを変え、沖縄の南海上に達した後、加速しながら日本の南海上を北東へ進み、27日09時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は、31日09時にアリューシャンの北海上で消滅した。

(気象庁予報部予報課)